

マタイの福音書 1章 18節～25節

はじめに

本日はアドベント第二主日です。今朝は、マタイの福音書から、主のみことばを聞きましょう。ここは、ヨセフと婚約中のマリヤの妊娠を知り、戸惑うヨセフに主の御使いによって、主のみこころが明らかになったことが記されています。

1 その胎に宿っているものは聖霊によるのです（20）。

イエス様の誕生については、マタイの福音書とルカの福音書が伝えています。ともに、マリヤに子が授かった時からのことを伝えています。マタイはヨセフに対して、ルカはマリヤに対して、御使いがその意味を伝えたと語っています。

マリヤは、ヨセフとの結婚が決まっていたが、まだ結婚する前に、マリヤに子が出来たことをヨセフが知りました。身に覚えのないヨセフは、戸惑いました。公にすれば、姦淫の女として処刑される。内密に去らせようとしたのですが、いつかは明らかになり、同じ結果になるであろう。自分がその罪を負い、直ちに結婚すべきなのか。

ヨセフが決断できずに思いを巡らしていた時に、主の御使いが夢に現れて、ヨセフに言ったのです。

「ダビデの子ヨセフ。恐れないであなたの妻マリヤを迎えなさい。その胎に宿っているものは聖霊によるのです。マリヤは男の子を産みます。その名をイエスとつけなさい。この方こそ、ご自分の民をその罪から救ってくださる方です」（20-21）。

ヨセフは、マリヤの純潔を信じていたでしょう。でも、何故このようなことが起きたのか。

御使いの答えは、全くヨセフの考えも及ばないもので、それは「聖霊による」のでした。人間の行為ではなく、聖霊なる神様が直接マリヤに干渉して、身ごもらせたものでした。神様が、そのご計画を実行するためにマリヤを選んで行われたみわざだったのでした。

適用：ヨハネの福音書は、「ことばが人となって私たちのう

ちに住まわれた」のが、イエス・キリストであることを教えています。

そして、このマタイの福音書とルカの福音書の伝える「受胎告知」は、まさに、神がどのようにして人となられたのかを教えているのです。神が人となる。しかも、罪のない人となるには、どのような方法があるのでしょうか。それは、「聖霊による」以外にはありませんでした。聖霊によることによって、神であり人である神の御子がこの世に誕生出来たのです。これは、一回限りの、神が人を救うために人となってこの世に来られた出来事であり、単なるいわゆる奇跡ではありません。

2 ご自分の民をその罪から救ってくださる方(21)。

主の御使いのことばに、このようにして、神が人となられた理由が語られています。それは、「ご自分の民を罪から救うため」です。罪から救うとありますが、人が神に背き、罪を犯してしまったという前提があります。人はこの罪を認めようとしないで、幸せになろうとしますが、聖書は、この罪の解決なしに人間の問題の解決はないと教えています。ですから、罪から救うために、神はこのようにして人となられたのです。

では、罪とは何でしょうか。

罪は、神の命令に背くことです。それは、アダムとイブの罪でした。そして、神は、モーセを通して十の戒め(十戒)をお示しになりました。十戒は、四つの神への戒めと六つの人への戒めからなっています。人への戒めは、誰にでも分かります。

「あなたの父と母を敬え」「殺してはならない」「姦淫してはならない」「盗んではならない」「偽りの証言をしてはならない」「人のものをほしがってはならない」ただ、日本人には神への戒めがピント来ず、罪とっていない人が、クリスチャンの中にもいるようです。

「わたしのほかに、ほかの神々があってはならない」「偶像を拝み、それに仕えてはならない」「神の御名をみだりに唱えてはならない」「安息日を覚えて、これを聖なる日とせよ」

この戒めを破ることが罪なのです。どんなに善良な人でも、法律を破っていなくても、十戒の一つでも破っていれば、神の前に罪人なのです。

罪を犯せば、神の前に死ななければなりません。神の

前に死ぬとは、神の所に行くことが出来ず、永遠に滅びることになります。

私たちが永遠に滅びることのないように、神は私たちを罪から救うために、人となられたのです。これがイエス様であり、イエス様はこのようにして、聖霊によって処女マリヤからお生まれになったのです。

3 主が預言者を通して言われたことが成就するため(14)。

なぜ、このようなことが実現したのでしょう。それは、神の約束があり、神はその約束を必ず実現なさるからです。神は、インマヌエルと呼ばれる方が、処女から生まれることを預言しておられたのです。「見よ。処女がみごもって鑄る。そして男の子を産む。その名はインマヌエルと呼ばれる」(訳すと、神は私たちとともにおられる、という意味である)。これは、それより700年ほど前にいた預言者ミカを通して神がなされたに預言です。そのように約束されていたから、そのことが実現したのです。

適用：聖書の救いは、すべて神の約束の実現なのです。神は、アダムが罪を犯した直後に救いを約束なさいました。そして、預言者たちを通して、確かな救いの約束をたくさんなさいました。そして、それがイエス・キリストによって実現し、その救いは今や全世界の人々に及んでいます。

結論

イエス・キリストは、突然、偶然に現れ、救い主となったわけではありません。神に背き、罪を犯して永遠の滅びに向かっている人間に対し、神は救いのご計画を立て、預言者を通してそれを人々に伝えました。そして、永遠の神の御子であり、創造者である方が人となり、救い主としてこの世にお出でになったのです。

どのようにして神である方が人になったのか。それが処女マリヤによる誕生という神のみわざです。2000年前のイエス・キリストの誕生とは、そういうことなのです。単に、後の世に大きな影響を与えた一人の偉大な宗教家が生まれたということではありません。神が人となってこの世にお出でになったということです。このことが本当に分かることがキリスト者になることです。キリスト者は、このことを真実、事

実と信じ、キリストを受け入れ、キリストに従って生きて行く者です。

招きのことば

イエス様は、私たちの罪を赦すために、十字架におかかりになりました。あなたの罪を赦し、あなたが天国に行けるようになってほしいのです。

「私たちが神を愛したのではなく、神が私たちを愛し、私たちの罪のために、なだめの供え物としての御子を遣わされました。ここに愛があるのです。」

「見よ。わたしは戸のそとにたって叩く。だれでも、わたしの声を聞いて戸を開けるなら、わたしは、彼のところに入って、彼とともに食事をし、彼もわたしとともに食事をする」

「主イエスを信じなさい。そうすれば、あなたもあなたの家族も救われます」

祈り

父なる神様。あなたの御子イエス・キリストを感謝します。私はあなたに罪を犯して来ました。地獄に投げ込まれても当然な人間です。

しかし、イエス様は、私の罪のために十字架にかかり、私のために死んでくださいました。

あなたは、私のすべての罪を赦してくださると言われました。感謝します。

私は、いま、イエス・キリストを私の救い主、私の神として信じ、受け入れます。

あなたは、私をあなたの子として受け入れてくださり、私を新しく生まれさせてくださることを感謝します。

今日からあなたに従っていきます。どうぞ、弱い私を導いてください。

イエス・キリストの御名によってお祈りします。
アーメン。